



2015年を迎えて

みずき野町内会
会長 佐々木 保昌



穏やかに新年を迎えられたこととお祝い申し上げます。
今年も皆様にとって良い年になりますようお祈りいたします。

昨年はスポーツ界に明るい話題がいくつもありました。
冬季オリンピックにおける日本人選手の金メダル獲得、
2020年の東京オリンピック招致、男子プロテニス錦織選手の活躍、など、勇気をもらいました。
そして、日本人科学者3名のノーベル物理学賞受賞で、停滞する日本経済に明るい兆しを見た思いです。

一方、天変地異など暗い話題もありましたが、11月に発生した地震では、白馬村の地域の助け合いが成果を挙げました。東日本大震災では、未曾有の大災害に対してお互いに助け合い乗り越えようとした日本人の姿に世界中が感動しました。“お互いを思いやり助け合う”という日本人が長い歴史の中で築き上げ、守ってきた伝統的な風土の成果です。残したい伝統、引き継ぐことに意味がある風土、を持つ幸せを実感しています。

みずき野でも、**福祉協力員**による見守り活動が形になりつつあります。また、防災倉庫を設置し防災機材の備蓄が整った丁目単位の**自主防災隊**の活動も始まりました。夏祭りなどを通じ**風土作りを推進**しながら、お互いに見守り助け合う**仕組み**が整えば、“安心・安全に住み続けることができる街”が具現化することを信じます。

本年も、町内活動を理解し積極的に参画いただけることを期待いたします。

穏やかな元旦初詣

厳しい寒波が予想されていましたが、幸い風のない比較的暖かな元旦になりました。今年も恒例の初詣が7丁目の文化財公園で行われ、午前6時半前から三々五々集まった100人近くの方が初日の出を待ちました。その間、町内会役員の方々が用意してくださったお酒、甘酒をいただき体を温めました。公園の東側は樹木がきれいに伐採され絶好の初日の出鑑賞地点となっています。日の出の方向には低い雲が横たわっていましたが、7時15分その上に見事な太陽が昇ると思わず拍手が湧き上がり、今年が良い年であることを祈りました。

初日の出を拝んだあと、矢嶋前会長の音頭でお社に向かい二礼二拍手一礼し、祝詞(のりと)を上げました。

みずき野にふさわしい穏やかな元旦の行事となりました。

(梅村 良)



間伐作業で林の中はスッキリ!

12月20日(土)、さくらの杜公園の間伐作業が行われました。守谷市職員および守谷みどりの会*の約40名、みずき野町内会有志60名の協働作業で、総勢100名が公園の樹木の間伐に汗を流しました。市役所職員がチェーンソーなどの重機で伐採し、町内会の人たちが持参のノコギリで小さく切って集積所まで運びました。霜柱が立つような寒い朝でしたが、動いているうちに身体はぼかぼか、汗ばむ程に。スッキリした公園を見て、数こそ力なりを実感しました。(小林 逸人)



間伐後のシラカシ林



切って



枝葉を落として



まとめて

門松づくり

(*)守谷みどりの会は、さくらの杜公園の樹木名板を取り付けたグループで、昨年と一昨年、文化財公園での間伐にも協力していただきました。



缶に竹と砂を入れて



縄を竹に巻き



みずき野集会所前

2014/12/27 13:21



郷州公民館前

12月27日(土)、矢嶋前会長、近藤前副会長を中心に5人のメンバーで門松づくりが行われました。ペール缶(鋼鉄製の缶)、飾り竹用の孟宗竹、竹を固定する砂、藁でできたこも(菰)、シュロ縄、飾り用のゆず・サザンカ・笹、運搬および作業台を兼ねた台車などを用意して門松づくりがスタートしました。竹の先端部は「笑う門には福来る」ということで、笑顔の「口の形」になるようカットしていて、何ともお洒落です。およそ3時間ほどで3セットを作り、みずき野集会所前に1対(2セット)、郷州公民館前に1セット置かれ、いずれも、どんど焼きまで飾られました。(長谷川 昭治)

“成年後見制度の現在” 講演会のお知らせ

日時・場所 3月15日(日) 10:00~11:30 みずき野集会所

講師 飯田邦男氏(元水戸家庭裁判所下妻支部 主任調査官)

成年後見制度は、認知症、知的障がい、精神障がい等により判断能力が不十分な人の権利や財産を守る制度です。具体的には、家庭裁判所が選んだ成年後見人等は、本人が不利益を被らないよう本人の意見や生活面に配慮しながら、権利や財産を守ったり、その人らしい生活が送れるように援助します。講演会当日、講演内容のレジメ(説明資料)を配布します。

笑顔の輪が 広がった 新年会

穏やかな晴天に恵まれた1月11日(日)、午前中の各種イベントに続き、みずき野集会所で町内会の新年会が開催されました。誰でも気軽に参加しやすくなるよう、昨年始まった賀詞交歓会を「新年会」と改め、100名を超える方々が集う楽しい会となりました。佐々木会長の発声で開会。来賓ご挨拶で、守谷市役所・横瀬部長は「地域の絆づくり」の大切さ、郷州小学校・中村校長は「地域全体で子供を守る」ことにつながる町内会活動の意義に触れられました。乾杯の後は、お料理や特製のたこ焼きをいただきながら、笑顔の輪がいくつも広がって、みずき野の新たな1年が賑やかにスタートしました。さあ、今年も町内会イベントを盛り上げて、笑顔が行き交う街づくりを進めましょう！ (北川 道子)



特製のたこ焼きも登場!



協賛フェア会場

妖怪クラゲでたぞー!!



新年イベント
餅つき・豚汁・どんど焼き
餅つき・豚汁・どんど焼き
新年会・妖怪クラゲ・協賛フェア

餅つき・豚汁・どんど焼き



恒例のどんど焼き、餅つきが行われました。当日は冬晴れの抜けるような青空となり、どんど焼きの煙もまっすぐ昇る風のない暖かな一日でした。豚汁とつきたてのお餅が振る舞われ、長蛇の列ができましたが全員に無事ゆきわたりました。つきたてお餅を何皿もお代わりする人もいて皆さん満足げな笑顔でした。子どもたちも餅つき体験をしたり、輪投げや、「妖怪クラゲ」のエアードームに潜ったりして会場に歓声が響いていました。(小林 逸人)

各丁目の公園に防災倉庫 設置

皆さまの”最寄りの公園”に防災倉庫を設置しました。12月21日(日)、自主防災隊の方々にご協力をいただき、防災機材の仕分けを行い、防災倉庫への収納を完了しました。防災機材が使われないことが一番ですが、万が一に備え、最寄りの防災訓練に参加してください。また、防災倉庫の位置は、災害発生時の”丁目指揮所”に当たります。(山下 勝博)



公園設置の防災倉庫



仕分け作業中



収納ノウハウを聴く防災隊員

整然と収納された機材あれこれ



収納を終え、ほっと一息の防災隊員

サークル紹介

じ きょう じゅつ

自彊術



私たちは、守谷自彊の会といいます。7丁目のどんぐり集会所をお借りして17年になります。自彊術-じきょうじゅつ、と読みます。来年100年を迎える日本で最初の健康体操です。お一人ひとりの体調に合わせて体のすみずみまで動かす全身運動で、31の動作を順序よく進めていくと約15分です。教室では体操だけでなくペアになったの療法もあり、明るい雰囲気の中、週1回楽しくしっかりと元気を創っていきましょう。不定愁訴でお悩みの方、運動が苦手な方、得意な方どなたでも、できるところから始めてみませんか？どんぐり集会所(火曜日の10時~11時半)でお待ちしています。

つるぎ
(公益社団法人自彊術普及会指導員 劔 早百合)



編集後記



未(ひつじ)年の2015年が始まり、すでに新年のイベントがいくつも動き始めました。町内会だよりではこうした活動や支援する人の動きを文と写真で紹介していきます。今号は、町内会だより初の6ページ構成で、佐々木町内会長の今年にかけの思いをトップに、次いで、年末年始に行われたイベントを取り上げました。また、この寒い時期、蝶たちはどうしてるのかを7丁目の宮原さんを書いてもらいました。「蝶の冬ごもり」を親子で楽しく読んでみてください。街で見かける福祉関連マークの紹介も行っています。

年末には自主防災倉庫が設置され、必要機材が備蓄されました。その様子を紹介しています。そして全身運動の健康体操・自力療法 自彊術についてサークル代表の劔さんに紹介してもらいました。(奈良岡 賢逸)

蝶の冬ごもり

寒さも本格的になってきました。春夏にかけて盛んに飛んでいた蝶たちですが今はほとんど見かけませんね。いったいどこに消えてしまったのでしょうか？どこかで寒さに震えている？

ご存知のように、蝶は卵 幼虫（芋虫）^{さなぎ} 蛹 成虫と姿を変えながら成長します。羽根を持って飛び回るのはこのうち成虫のみです。蝶の冬の過ごし方はさまざまです。日本に居る蝶の仲間の冬越しは大ざっぱに下記のように分類できます（いくらかの例外はあります）。

- 卵：一部のシジミチョウの仲間
- 幼虫：タテハチョウの仲間、シジミチョウの仲間、セセリチョウの仲間
- 蛹：アゲハチョウの仲間、シロチョウの仲間
- 成虫：一部シジミチョウの仲間、一部のタテハチョウの仲間



幼虫か蛹で越冬する種類が多数派です。成虫で越冬する例は少なく、また、卵で越冬といっても、実際は中で幼虫の形になっていながら春になるまで卵の殻の中でじっとしているのです。越冬中の幼虫・蛹は落ち葉の下や軒下など雨や雪を凌げる場所、また、成虫は枯葉の隙間や常緑樹の葉陰などに隠れています。

春になると、どの種類も一斉に動き出す訳ではありません。幼虫の場合は、おのこのの食草・食樹の芽吹く時期に合わせて目覚めるのです。（蝶は種類ごとに決まった植物しか食べません。）また、冬越しした成虫は春に卵を産むことになります。

みずき野近辺での代表例（蝶名に*が付いているものは、下で詳しく説明しています）

- 卵：ミドリシジミ、ウラゴマダラシジミ*
- 幼虫：ゴマダラチョウ*、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ
- 蛹：アゲハチョウ、アオスジアゲハ*、モンシロチョウ、ツマキチョウ
- 成虫：ウラギンシジミ*、キタテハ、ヒメアカタテハ、ムラサキシジミ
(暖かい日に時々日向ぼっこで飛び出します)

ウラゴマダラシジミ（成虫は6月上旬）
卵で越冬します。守谷の雑木林に多い低木イボタノキの枝に卵は産み付けられます。まるで空飛ぶ円盤のような不思議な形をしています。色も含めイボタノキの芽に擬態したものと思われま



卵-円盤の直径は1mm程度



成虫



幼虫-枯葉の色に擬態している

成虫-羽化した直後

ゴマダラチョウ（成虫は6月～9月）
幼虫で越冬します。2本のツノを持ったかわいらしい姿をしています。食樹のエノキの葉が緑の時期は幼虫の体も緑色ですが、秋になり葉が落ちる頃には灰褐色に変化して、根元に降りて落ち葉の裏などに隠れます。見事な葉隠れの術です。体長は約20mm。ちなみに、みずき野周辺には見られませんが、日本の国蝶オオムラサキの幼虫もこれとそっくりな姿と生態をしています。

裏面に続く...

アオスジアゲハ（成虫は5～10月）
 蛹で越冬します。夏・秋の蛹と色形の違いはありません。春になって羽化してくる成虫は、夏に羽化するものに比べて小型で羽根の水色の模様の割合が多い個体になります。蛹になる場所は食樹（クス）の葉裏のこともあります。幹から降りて何メートルも這い回って、軒下などの場合も多いです。せっかく蛹の形と模様を見事にクスの葉に似せているのに、台無しではないかと思ってしまう。



クスの葉上で休む成虫

ウラギンシジミ

成虫で越冬します。羽根の裏が銀白色で飛んでいる時はとても目立つ蝶です。毎年、自宅の庭のユズの木の葉陰に身を隠してじっとしているところを見かけます。銀白色なので「目立っているのですが、」とツッコミを入れたくなるほどです。

（宮原 吉郎）



葉陰に蝶が2頭

マークあれこれ

みなさん！知っていますか？見たことがありますか？



【介護マーク】「認知症など外見から要介護状態であることが分かりにくい人」を介護する方が、介護マークを首から下げます。これにより、介護中であることを周囲の方に知ってもらい、偏見や誤解を避け心の負担を軽くすることが目的です。静岡県で始まった取り組みで、お茶の緑とみかんのオレンジで静岡らしさを表しています。守谷市でも取り組みを実施しており、このマークの貸し出しを行っています。

- 使用例：
- ・男性介護者が女性用下着を購入する時
 - ・駅やサービスエリアなどのトイレで付き添う時
 - ・介護をしていることを、周囲にさりげなく知ってほしい時
 - ・障がいのある方を介護する時



【障がい者のための国際シンボルマーク】障がい者が利用できる建物、施設であることを明確に表すための世界共通のシンボルマークです。このマークは「すべての障がい者を対象」としたものです。特に車椅子を利用する障がい者を限定し、使用されるものではありません。



【マタニティマーク(妊婦マーク)】妊産婦が交通機関などを利用する際に身につけ、周囲が妊産婦への配慮を示しやすくするもの。さらに、交通機関、職場、飲食店、その他の公共機関などが、その取り組みや呼びかけ文を付してポスターなどとして掲示し、妊産婦にやさしい環境づくりを推進しています。



【身体障がい者標識(身体障がい者マーク)】肢体不自由であることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークで、マークの表示については、努力義務となっています。危険防止のためやむを得ない場合を除き、このマークを付けた車に幅寄せや割り込みを行った運転者は、道路交通法の規定により罰せられます。



【ピンクリボン】乳がんの正しい知識を広め、乳がん検診の早期受診を推進することなどを目的として行われる世界規模の啓発キャンペーン、もしくはそのシンボルマークです。